

1	審議会名	第2回上田市スポーツ推進審議会
2	日時	平成25年3月14日 午後7時から午後8時30分まで
3	会場	教育委員会やぐら下庁舎2階会議室
4	出席者	犬飼会長、小林副会長、石川委員、野口委員、廣川委員 堀内委員、宮本委員、渡辺委員
5	市側出席者	教育次長、スポーツ推進課長、丸子地域教育事務所長 真田地域教育事務所長、武石地域教育事務所長、スポーツ施設係長 スポーツ推進係長、スポーツ推進係
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	25年3月26日

## 協議事項等

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

## 3 議事

- (1) 平成24年度上田市スポーツ推進事業について  
(2) 平成25年度上田市スポーツ推進事業について

- (会長) 平成24年度上田スポーツ推進事業について事務局より説明をお願いします。
- (事務局) 平成24年度のスポーツ推進事業の説明
- (会長) 平成24年度のスポーツ推進事業について報告を頂きましたが、それについて何かありましたらお願いいたします。
- (委員) 上田スポーツプレスを用いた情報発信はとてもいい。  
他の市町村でも同じ取り組みをしたいとの感想を頂いた。  
トップアスリートチームへの声掛けを行い活用してほしい。  
スポーツ推進委員の資質向上についての研修は今後も続けてほしい。
- (会長) プロバスケット選手の体格の違いを感じられる触れ合いの場は、子供たち夢などを与える場としてすばらしい。連携をもって進めて欲しい。  
魅力あるスポーツイベントづくりの部分で「うえだスポーツナビ」の参加者が少ないのは広報のやり方の問題だという事務局の説明であるが、周知期間の短かさなどについても考えられる。
- (事務局) 「うえだスポーツナビ」については、今年度初めての試みであったため、どのように進めていくべきか模索しながらという部分がある。イベント内容等の詳細について早期の決定をし、より早く情報を発信できるよう取り組みたい。
- (会長) 市外から見ていると市街地を歩く際のわかりやすい看板等の表示があれば歩く人の目安になりやすいと感じる。歩行中に顔を合わせる人とのコミュニケーションが取れるなども宣伝のひとつにすると良いかも。
- (事務局) 大変いい意見を頂きました。確かにPRにもなり個人の目安ともなるので実施しやすくなる。実施に向けてよく検討したい。
- (委員) 先程話題に出たスポーツプレスは多くの場所に置かれていることもあり、内容的にもスポーツに対する発信力が非常に強い。スポーツに興味のなかった人がこれにより興味を持つようになっている。  
最近のスポーツ界は体罰問題等にゆれているが、平成24年度の中学、高校のクラブ活動の促進で地域の力とかスポーツの力、全て巻き込んでいかないと変わることが出来ない。スポーツ振興が変革を促すことになるように上田市がリーダーシップを取ってほしい。

(会 長) 確かに世間で大きな話題になっています。積極的に向き合っていけるようなスポーツ推進にしたい。来年度の話も出たので、平成 25 年度のスポーツ推進事業について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成 25 年度の上田市スポーツ推進事業について概要説明

(会 長) ありがとうございます。平成 25 年度の実施プランまでお話いただきました。

(委 員) こころのプロジェクトは、東日本大震災の復興支援に関係あるのか。

(事務局) 別事業である。同じような名称で大震災復興プロジェクトも動いているようだが、こちらは現役選手や引退した選手を対象に公演などの活動を行っていくものであり関係性はない。

(委 員) 上田市独自のものか。

(事務局) 独自ではなく、日本サッカー協会の事業である。協会から選手などを派遣していただき小学校を対象とした授業を実施したいと考えている。

(会 長) 小学校 3 校を選んでクラス単位での実施ということだが、そうすると必然的に少人数の 1 クラスしかない学校が対象ということか。

(事務局) 例えば 3 クラスあるような学校でしたら、クラスごとに 3 回実施する。ただし、同じ日程（時間帯）で 3 人の講師に来てもらうということは難しい。

(会 長) 具体的に派遣選手として誰が来るか分かるのか。

(事務局) 基本的には日本サッカー協会によりスケジュール等を調整し選定されるため、誰が来るかは現時点では分からない。過去、千曲市などで実施した例では、サッカー選手などが来ている。サッカー選手に限らず例えば水泳選手や他種目の選手も先生として登録されている。日本サッカー協会の担当と話をしたところでは、各市町村の希望があれば伝えて欲しいというお言葉をいただいた。

(委 員) 3 校の実施ということであるが、サッカー協会として 3 回しか派遣できないことなのか。

(事務局) 派遣に際し、講師料、交通費等を要するため予算措置の範囲内であれば可能な限り実施できるが、3 校くらいと言ったのは、確保できた予算が平成 25 年度は 3 校程度であるという解釈。

(会 長) 沢山の学校が希望した場合はどうするのか。

(事務局) 市内で小学校が 25 校あるので全クラスを対象にするとかなりの予算措置が必要になる。多くの学校で希望が出た場合、どのように選定するかという問題もあるが、初めての試みでもあるため、まずは予算内で実施し、効果等があれば来年以降は予算の増額等を検討していければと考えている。

(委 員) これだけ多くのスポーツ行事がある中で、皆で連携をとりながら実施している事業が見受けられないように感じる。体協や総合型スポーツクラブの指導者などが集まって企画するイベントを実施すれば、もっと子供たちや保護者も集まると思う。年に 1 回の開催でも横のつながりも形成されていくのかなと思う。

スポーツプレスの話だが、各施設に置いてあるが、新聞折込などで全部の家庭に見てもらうとかそういうことは出来ないのか。

(事務局) 新聞折込を実施する場合は多くの費用を要する。

(委 員) 内容的にいい広報媒体なので、置いておくよりは全戸配布して皆さんに見ていただいたほうが良いと思う。我々の事業でも新聞媒体を通しての問い合わせが良くあるので、手段としては有効だと思う。

(事務局) 設置場所も含めてより良い方法を今後検討したい。

(委 員) 中学校と高等学校の支援の関係について地域密着で出来れば良いのではないかと。

子供たちはプロ選手のような「本物」に触れることを非常に楽しみにしている。あるプロジェクトを各学校の校長先生にお願いに行くと、校長先生によっては社会体育の関係は絶対に駄目だと断られることがある。学校により考え方がかなり異なるよう感じる。

(委 員) 今、行っているのは社会体育ではなく、冬場に部活動ができないため何とかしたいという保護者などの熱意によって、社会体育として部活動が形を変えることで午後 5 時以降も使用できるようにしたという経緯がある。従って、社会体育ではなく部活動の延長。

子供の負担になっていることも事実としてある。中学生が 8 時過ぎに帰宅するようでは中学校の生活が成り立つのかという心配もある。過度の負担にならないようにということで学校としては認めないということのよう。

- (会 長) それぞれの立場で子供たちを育てようとしている方向性は同じだと思う。  
様々な立場で、外から新しい提案があった場合、しっかりと検討しなければいけない。一概にはねつけるのではなく、本質的な部分についてお互い共有できるようにするべき。  
各イベントの団体が一同にかいして1つのイベントを行えば、いろんな意味でメリットがある。市のスポーツ推進課がネットワークをつなげるようにして欲しい。
- (委 員) 我々とスポーツ推進課との連携は密着型でいかなければいけないと思う。我々も振興計画に合わせたビジョン作りをしている。休館日に体育施設で行う「市民健康体力づくり」を、いずれは真田、丸子、武石の各地域にも普及させ、上田市全体で実施できるようにしたい。  
スポーツ推進課が中心になり計画を進めていくようお願いしたい。今後の推進計画の中で窓口の一本化をして欲しい。  
健康づくりは健康推進課、障害者関連は福祉課と窓口がばらばらでわかりづらい。平成25年度の事業を進めるに当たっては事務局側とよく話をして進めていきたい。
- (会 長) 関連していかがか。  
現在、スポーツ推進課と健康推進課で提携事業はあるのか。
- (事務局) 健康推進課と他の課も交えての事業計画がある。
- (会 長) 例えば、健康診断などで運動指導や栄養指導で引っかけた人に対し、スポーツ推進課からイベント参加を促すようにし、参加ポイント制で次回以降の健康診断に特典をつけるやり方など面白いと思う。  
スポーツ好きの人間は呼びかけに応じるが、そうでない人の参加に関しては色々な課と連携をとり、取り込んでいく必要がある。  
3on3のバスケットボール大会だが車椅子バスケの大会を開催するとぶつかり合いが激しく、スポーツを見ている感じがより楽しめる。障がい者としてのスポーツだけではなく、健常者も車椅子を使って参加できるようにすればよいと思う。信州大学にはそのようなクラブもある。
- (委 員) 各学校で外部指導者を探しているような状態。必要な人材を要請に対し、指導者を派遣できるような取組みをお願いしたい。上田市にも各種協会が存在するがその辺りの連携についてはどうなっているのか。
- (事務局) 前々からの課題になっているが、まだそこまでできていない現状である。
- (委 員) 上田市出身の指導者リストを現在作成している。各競技団体の分も集めている。窓口が体育協会になるのかスポーツ推進課になるのか統一化を図って欲しい。  
退職した指導者が沢山いるので、そういう人たちもリストに上げてまとめていければいいと思っている。
- (会 長) スポーツが単一の競技に限らず、広い形で科学的にもトレーニングできるような人材を求めていると、体育協会に言うべきなのか、全体を通して考えるのであればスポーツ推進課が良いのか、そういう部分があるので連携をとって支援できる体制を作るようにして欲しい。競技思考に偏ると問題も出てくる。
- (委 員) 財団の集まりがあり、体協と行政との連携をどのようにやっているのか聞くことができる場がある。その辺も参考にしたい。
- (会 長) 体協は前向きに検討している。
- (事務局) スポーツ推進課としても前々からそういうものを作っていこうという動きはあるが、進んでいないのが現状。体協と相談しながら進めていきたい。  
必要性はわかっている。学校サイドからも要望は上がっている。
- (会 長) スポーツプレスでもボランティアをクローズアップする記事を掲載したらどうか。指導員もボランティアも選手ももっと見えるような形にして欲しい。
- (委 員) 子どもたちは年配の元アスリートより大学生のボランティアのほうが馴染やすい傾向にある。今求められているのが大学とのコラボレーション。何か情報はあるか。
- (事務局) 市内のマラソン大会に大学生に出てもらうことはあるが、大会開催や大会サポートで大学に係わってもらった例はない。組織的にお願いした前例もない。
- (委 員) カテゴリーの視野の中に大学に期待することは。
- (事務局) 我々のほうでも、大会の開催等でボランティア募集をするが、直接大学にお願いしたことはない。今後はその点も積極的に取り組んでいきたい。逆に大学や大学生にはそういう可能性はあるか。

(委員) わかりませんが、スポーツが好きな人は沢山いる。

(委員) この審議会委員に大学の先生がいるという時点で、大学と連携していることではないか。大学の専門知識を上田市に取り込んでいることをみれば審議会委員に就任している時点でそれは連携になっていると思う。

松本大学の学生に県のイベントで来てもらうが、受付や場所の設置片付けまでよくやってくれる。但し、学生を社会奉仕させるという意味合いで来て貰うことが大切である。

学生をボランティアで呼ぶ時は学生を育てるという意味で呼んでいただけるとありがたい。

先程の事業計画の説明があったが行事が非常に多い。残す事業と全体で行えばひとつになる事業があるのではないか。事業の必要性を求める。

学校側では地域の人を取り込んでいこうという動きがある。小学校でも、クラブや事業で活用している。教育委員会に任せるのではなく、各団体、総合型も率先して学校にアプローチをかけて欲しい。イニシアティブを取るのは行政ではなく市民のほうにならなくてはいけない。スポーツ推進課任せでは進まない。

(委員) 上田市少年少女サッカー大会がありスポーツ推進課との連携ということでは高校生の手伝いをさせていただいている。高校生が小学生の試合を見ることで、逆にやる気をもらうような好影響も受けているようだ。大学生だけでなく高校生にもぜひ参加するようにして欲しい。

(委員) 施設のことだが、バレーの県の連盟大会が12年に1度周回ってくる。関係者約2200人が開会式に参加する。12年前は自然運動公園を使用したけど、上田市の体育館の老朽化が目立つ。若しくは小さい。上小地域で考えても施設数が少ない。早急に体育館を作って欲しい。自然運動公園体育館を何とかして欲しい。市の立場としてはどうか。

(事務局) 私の立場で言わせていただくとまったく同感である。上田市は自然運動公園体育館が比較的新しい。施設整備の順番を考慮しながら総合的に検討していきたいと思う。

(会長) 連携してあるいは計画を立てて進めていきたいものがあるが、もう少し具体的な数字で資料に表して計画に出てくれば、上田市の計画になっていくようになると思う。

#### 4 閉会